

働正 年譜

1934年	8月16日	熊本県宇都郡松合（現・宇城市不知火町）に、父竹雄、母スエノの子として生まれる	祖父母は農業を営んでいたが子がおらず、両親は共に養子として迎え入れた。戦時中、父は出征。母は正を10代半の時に産出し、中絶に出産後に仕送りをしていた。残された正は、祖父母に育てられた。そのため大きくなるまで祖父母を実の両親と信じて母のことを姉と信じて育った。姉と思っていた人が実の母と聞かされた衝撃を受ける。近所の倉谷家、トニーをを上納していた。戦後、父はそこでグワイオンを弾いていた。働は文化的教養があった倉谷家の息子に影響を受ける。
1940年代後半		中学卒業後、上京	東京に出て洋画家の林武に弟子入りしうらやま家を訪ねるが、林は妻に「こんなところに来るんやなくて、悪いんだからもっと親孝行しなさい」と諭される。しばらく東京にとどまりバーテンダー、マッヂのラルル嬢きなど色々なバイトをしていた。
1950年代前半		10代後半、北九州小倉へ	九電の食堂で働いていた母を頼り、北九州小倉へ。映画の看板や広告スライドを描き生計をたてる。
1954年		作家を志望し、新聞などへ寄稿	20歳の時に寄稿したのが「いろりばた」（掲載新聞不明、坂本善三画）
		木村時枝と結婚	北九州黒崎の書店に勤めていた女性に一目惚れ。妻となる。
1956年		長女誕生	
	11月2日-4日		ペルソナ展（福岡県庁西側大入り壁面、福岡市）のちの九州派の活動につながる展覧会。石橋泰幸、オオササム、黒木隆治、桜井孝身が出品。保野陽などの詩人たちも参加。
1957年	7月		「九州派」結成集会（西日本新聞社会部蔵、福岡）保野陽の蔵で開催し「九州派」の発行を、倉庫静量または田部光子の蔵で印刷「Q」が決定していたが、8月のグループQ18人展で菊畑茂久馬が参加。
1958年		谷口利夫が、大牟田の西部美術学園の運営を、師事していた山口正雄から引き継ぐ	集団戦線の前身ZELLEのメンバーだった山口正雄の娘は山口正雄の息子。谷口は1952年に設立された新しい児童美術教育を掲げる創造美術協会に関わっていた。
	9月20日		「サークル村」（九州サークル研究会）創刊
1959年		長男の淳が生まれる	
		この頃、桜井孝身と出会い、サルトルについての会話で意気投合？	
	4月1日-19日	第9回モダンアート展 東京都美術館	出品＝斎藤孝三（組）、倉庫静量（個）、谷口利夫（人）の（人）の、中西和子（蝶の怒り）（蝶の愛情）、備正（遺物）、皆島芳子（白い狼）、山内重太郎（作品1） 働にとっては最初で最後の高松広太郎への出品となった。
	11月12日		三池争議の地まり
	11月15日	グループ西日本結成	メンバー＝川上宏三、斎藤孝三郎、倉庫静量、谷口利夫、中西和子、備正、皆島芳子、池田寛、尾方利男、長沢明美、高橋剛 同年12月に「演劇展」結成。メンバー＝オオササム、菊畑茂久馬、山内重太郎
1960年		この頃、小倉のジャズ喫茶「アベベ」で森山安英と知り合う	
	1月25日		三井鉱山三池鉱業所がロックアウト。三池労働は無期限スト。
	3月31日-4月2日	グループ西日本展 福岡八善画廊、福岡市	グループ西日本の旗揚げ展。働は〈空白〉という作品を展示。
	6月5日-12日	第1回全九州アンデパンダン展 八幡市美術工芸館	事実上の第3回九州アンデパンダン展。〈作品〉2点出品。サークル村所属の桜井浩一、主演。企画は九州派。森山安英も働の誘いで参加。針生一部を招いたシンポジウム開催。
1961年	7月	27歳の時に九州派に参加／機関紙「九州派」4号に初めて名前記載	一目惚れした菊畑とおさが九州派に復帰。菊畑が、グループ西日本としての「理論家」として知られていた働を九州派の引き継ぎたいとされている。8月8日に発行された機関紙「九州派」4号に初めてメンバーとしての名前が掲載される。働はエッセイ「僕は駄目」を寄稿。
	9月10日	機関誌「九州派」5号発行	働の評論「存続の現実に向き合う」が九州派の画けた急務の状況を折える。
	9月14日-19日	九州派展 銀座画廊、東京	「未知来展」のポスターを制作。働はオブジェを展示 岡本太郎、ネオダグの作家たち、評論家数多数来場。
1962年	2月		谷口利夫、皆島芳子、健忠一ら、「新現実集団」結成（大牟田市）大牟田を拠点とする。妻と詩人によるグループ、九州派ともなりの交流があった。この建築家が菊畑で度々の美術の仕事やも、西部美術学園の手入れを始めめる。働もこの頃から関わりはじめたか。
	3月頃		菊畑が九州派を脱退
	6月12日-22日		菊畑茂久馬個展（南画廊、東京）南画廊の企画で、菊畑の東京初個展。これ以降菊畑は完全に九州派を離脱。
	6月25日	ハブニング、福岡市	車輪のついた箱を複数連結させて壁で体に繋ぎ、筆筆の道路を模索しようとした。
	10月1日	機関誌「九州派」6号発行。	「個展に全生命をかける」ため、菊畑は3月或九州派をやめた、という記述あり。
	11月15日16日	英雄たちの大集会 百道連、百道海水浴場、福岡市	参加＝大山石一、小嶋英真、桜井孝身、田部光子、長瀬子、備正、宮崎孝之助など 働は（名刺）（福岡市美術館蔵）を配布したほか、何かを想やパフォーマンスを行なっていた？東京から来ていた美術評論家のヨシフ・ヨシエが機関誌「九州派」7号に「解体論の確立して」を寄稿し報告している。森山安英、田中幸人（毎日新聞社会部記者）、深野治（フクニチ新聞記者）なども観覧した。
1963年	7月10日	「新現実集団会報3」に「ハブニング＝スキヤングル」を寄稿	
	10月3日-8日	九州派展 美目画廊、東京	働はインクレーション（伊・B氏の選考する複製）を展示。岡本では、すでに九州派を脱退していた菊畑が、岡本のついに博多校で列車に引きずり込まれ、東京まで拉致される。列車内では、働は列車の進行方向とは逆向きに車で道を這いつくハブニングを行なった。
	11月9日		三井三池炭鉱火災発生
	12月13日-15日	九州派展 新天会館、福岡	働と谷口利夫が全身に包帯を巻いて、座り続けるハブニングを行なった。
1964年	2月7日	ハブニング 天神交差点、福岡	前身に新天会館で行なった包帯のハブニングを、NHKの取材依頼により屋外で再現。人通りの多い路上で全身に包帯を巻いて横たわり、警官に連行されるまでの様子を局員が撮影し放映した。
	4月6日-11日	備正個展 内科画廊、東京	日常的な品物を包帯で巻いてオブジェ化した作品を展示
1965年		西部美術学園を引き継ぐ	谷口利夫、福岡の六本松に西部美術学園を設立
	2月15日-20日	九州派小品展 福岡ビル（三菱信託銀行ロビー、福岡市）	出品＝石橋泰幸、大黒孝子、大山石一、小嶋英真、尾花成春、尾張雄、谷口利夫、田部光子、備正、宮崎孝之助、米倉俊
	8月3日-8日	10周年記念展九州派 福岡文化会館をもちつ九州派解散	本展が最後の九州派グループ展となった。この頃のリーダー尾張雄の提案で、会期中に解散が決められた。
1966年	4月30日	同人誌「反存在」を大牟田の詩人らとともに発行「反存在1」に「反世界考察 融合と連帯 1」を寄稿	
	8月10日	同人誌「反存在2」に「反世界考察 融合と連帯Ⅱ」を寄稿	
1967年	2月21日-26日	九州・現代美術の動向展 明日の可能性をさぐる気鋭の18人！福岡県文化会館	菊畑と谷口浩二（西日本新聞）、深野治の企画。2月24日には針生一部を招いて公開批評、討論会が開かれた。
	8月13日-20日	南日本現代美術展 高知県教育会館、高知市	高知の美術家グループ「土皮派」の企画。谷口利夫、働らが出品。菊畑と谷口浩二が協力。
1968年	2月27日-3月3日	第2回九州・現代美術の動向展 福岡県文化会館	出品＝石橋泰幸、大黒孝子、大山石一、小嶋英真、尾張雄、菊畑茂久馬、桜井孝身、谷口利夫、田部光子、長瀬子、中田信一郎、備正、平山史郎、米本隆治、宮崎孝之助、ほか 働の紹介で森山も出品？初日は現代美術講演会、討論会が開かれた。針生、石子瀬道が登壇。谷口利夫が報告し、谷口浩二が司会を行なった。
	4月15日？		「集団戦線」の前身「ZELLE」結成 メンバー＝加藤勲、遠矢政巳、香元亮人、森山安英
	11月下旬		加藤勲、香元亮人、森山安英「戦線宣言」カードおよび「集団戦線」ビラの発行
1969年	2月25日-3月2日	第3回九州・現代美術の動向展<別の世界展> 福岡県文化会館	出品＝小嶋英真、尾花成春、菊畑茂久馬、斎藤孝三郎、桜井孝身、備正、向木重治、宮崎孝之助、米倉俊（以上、九州派）、「集団戦線」、「集団へ」、ほか 事務局長を菊畑が務める。菊畑、針生一部がKBCに出演中に「集団戦線」「集団へ」が流入しハブニング、生放送され抗議殺到。26日、菊畑、針生の講演会（福岡市民会館）、これにあわせるかたちでTR 両が仮面をつけたハブニング。

1969年	4月	九州芸術研究会 喫茶エルム、福岡	尾花成春、桜井孝身、備正、ほか
	5月3日	万博破壊九州大会 アングラ映画とハブニングの夜（第1日） 戸畑文化ホール、北九州市	参加＝尾花成春、近藤源三、桜井孝身、「集団戦線」、「集団へ」（新聞一葉ほか）、田部光子、備正、深野治、福澤雄、秋山祐徳太子、「8ジェネレーション」（かわなかのぶひる）、金坂健二、「ゼロ次元」、「杏雨」、佐藤健臣、「プレイ」
	7月	崎形三派狂乱大集会 小倉労働会館、北九州市	参加＝尾花成春、近藤源三、桜井孝身、「集団戦線」、「集団へ」、田部光子、「北九大大彫形グループ」G」、備正
	10月21日-26日	「1969 朝日西部美術展」福岡県文化会館	参加＝尾花成春、近藤源三、桜井孝身、「集団戦線」、「集団へ」 「九州派」の連名で「粉砕声明。針生一部と斎藤義雄が審査員を辞退、河北康明、浜田知明に審査を委任。
1970年	3月2日		「筆書房」久本三多により福岡で創業/菊畑が（天動説）シリーズ制作開始し絵画制作を復活する。
1971年		「伝習館わいせつ裁判」に「集団戦線」森山安英の特別弁護人としてかわかる	
	1月29日-2月4日	備正”風景” 図絵展 画面喫茶「もり」 大牟田市	大牟田在住の詩人で評論家の境忠一が評論文を寄稿。森山のインタビューによると、森山に働に頼み込み、作品の一部を森山の弁護士に対する対価としてカンパにしていた。
	4月7日	フクニチ新聞に「芸術表現における直接性」寄稿	
	10月		熊本市内中心部に「喫茶カリガリ」が開店。水俣病1次訴訟が本格化した頃、製糖業界の労働組合幹部としての活動経験があった松浦義雄（宇城市出身）が闘争支援のために帰郷し、妻と共に帰郷。石牟礼道子や評論家の道辺京二ら多くの文化人が通い、水俣病闘争支援の「プロジェクト」と呼ばれた。働とも親交があった島田美術館館長長島貞祐や石炭社の福元満治、岡冢家の山本幸一（大牟田出身）らも常連だった。
1972年	1月	「美術手帖」1月号に「九州派1963」を寄稿	
	2月	「美術手帖」2月号に「麓かれたる肉体のラジカリスム」として働による森山裁判報告を寄稿	
1973年	1月	菊畑が編集した山本作兵衛作品集「筑豊炭鉱絵巻」（筆書房）出版記念会に出席。	
	8月24日-29日	大牟田井筒屋で個展	境忠一と有明高等助教授の吉富久男が評論文を寄稿。この年、働は特別弁護人を降りることを表明。森山に有罪判決が出る。
	10月1日	季刊誌「随河（くらごう）」創刊	松浦、石牟礼、道辺らが編集する同人誌の季刊「随河（くらごう）」創刊。カリガリが編集拠点となる。出版＝筆書房（創刊＝27号）、随河の会（28号＝48号）、創刊号の表紙は、菊畑の「天動説」シリーズ（ボックス）。菊畑と働が交代で表紙やカットを担当した。働が表紙を担当したのは18号＝23号および30号以降。
1975年	7月	「随河」8号に「肉体内と言語の隙で一森山安英の行為をめくって」を寄稿	寄稿にあたり、働から森山に宛てた書翰（福岡市美術館蔵）が残っている。
1977年		「随河」16号に「放浪の隙間で」を寄稿	同僚会を機に、妻とともに故郷の松合（現・不知火町）に暮らすに決めた時のエピソードが載っている。
1978年		働宅にて菊畑の著作「天童の美術」の出版記念会で働、菊畑、森山が再会する。	
1980年		菊畑茂久馬「小さなボックス」（筆書房）の挿絵を手がける	筆書房の「絵本・語りつく戦争」シリーズ第二弾
1981年	8月7日	サマープロジェクション 熱く踊る田中派、西部美術学園	当初、大牟田の労働組合社で開催予定だったがバーカッションの音が問題視され、急遽、西部美術学園に場所を移して開催となった。
1983年	1月	西部美術学園に通う小学4年生10人ばかりが集まり「海にねむる龍」構想がはじまる	この頃成年の沈黙を破るかのように菊畑が油彩画（天動説）シリーズを発表し始める。
1985年		創作版画絵本「海にねむる龍」が完成。ガリ版で制作された後、7月に石炭社から出版された	制作に関わった当時の児童＝東郷孝、塚本雄三、池田義雄、夏秋鉄哉、松瀬純子、木下美加、若川に、原田隆、野田健樹、斎藤孝子
	11月24日	「オロシ底から吹いてくる風は：山本作兵衛追悼絵」（筆書房）に「天上と地底を繋ぐ二人」を寄稿	制作に関わった当時の児童＝東郷孝、塚本雄三、池田義雄、夏秋鉄哉、松瀬純子、木下美加、若川に、原田隆、野田健樹、斎藤孝子
1986年	5月17日	NHK福岡制作のシリーズ番組「九州むかしばなし」で「海にねむる龍」を題材にした番組が放送される	企画制作＝野田健一 語り＝江崎嘉郎、遠藤美子 同番組についての思い出が記された菊畑の年賀状を「えのくぼこ」で紹介している。
	10月	義だつエッジ ガラリイおいしい、福岡	初めて本格的に絵画を発表
	11月	詩とエッセイ集「子どもにももらった詩のこころ」出版	文＝みずかみかず 挿画＝備正
1987年			
	10月	義だつエッジ’ 87 島田美術館、熊本	森山安英、この頃絵画制作を本格的に再開する。
1988年	2月	絵本「雨夜の皇子」出版（石炭社）	文＝島田まさ、絵＝備正 島田真祐の母・島田まさによる熊本西部の昔話集
	9月23日-10月10日	九州派展——反芸術プロジェクト 福岡市美術館 シンポジウム「九州派を解剖する」にパネリストとして参加。	企画＝黒田直実
1991年	10月	絵本「白水池の竜」出版（筆書房）	文＝今絵堂晴子 絵＝備正
1992年	7月28日	西部美術学園でウィグルの音楽家シヨビラティ・アルソンのミニコンサート開催	企画＝福元美治
	9月	肝臓病で入院	
	10月	個人誌「お元気ですか1」を刊行	私小沢。近況を知らせるために友人知人などに郵送していた。1996年4月10日付の西日本新聞に掲載された田部光子による働の追悼記事にも記載がある。不知火美術館にも1、2共に所蔵されている。
		肝臓癌の手術	
	11月	長男、淳一家が大牟田に戻り、西部美術学園を支える	
1993年	4月	退院	以後、入院を繰り返しながら、創作活動が続ける。
1994年	1月15日-30日	備正 ’83～’93 島田美術館、熊本	不知火美術館・図書館の前身である不知火文化プラザ準備中、同館の学芸員が来場し、数点購入・寄贈が決定
	6月	個人誌「お元気ですか2」を刊行	
1996年	4月6日	死去（享年62歳）	
1999年	8月1日-8日	備正遺作展—表現と反表現の位相 島田美術館、熊本	不知火文化プラザ（現・宇城市不知火美術館・図書館）開催 設計：北川源十・伊藤建築事務所
2006年	4月	備正回顧展一来公開作を中心にカフェロンドア 大牟田	
2008年	4月1日-20日	ある軌跡 備正＆淳 一戦子里帰り展 宇城市不知火美術館	企画＝働淳
2011年	3月9日-27日	備正・働淳展 早良美術館うらゝ、福岡市	
	7月9日-8月28日		菊畑茂久馬回顧展 戦後／絵画（福岡市美術館・長崎県美術館 企画＝山口洋三）
2015年	10月28日-2016年1月17日	九州派展 福岡市美術館	企画＝山口洋三「福岡市美術館創業書6 九州派大全」刊行
2017年	5月5日-9日	「放浪の記憶と関西——三池炭鉱閉山20年展」文化エル・おおさかギャラリー 6月6日＝30日、関西大学博物館	企画＝岡部研究会「備正・淳父子と西部美術学園」で九州派時代の写真資料や後年の絵本、絵画作品などを紹介
	5月19日-6月3日	九州派が残した大牟田の美術教育 大牟田市石炭産業科学館	企画＝働淳
2018年	5月19日-7月1日		森山安英 身体と再生（北九州市立美術館本館 企画＝小松肇一部）働による「特別弁護人冒険家冒険隊」原稿（1971年3月函）や「戦線通信」への寄稿文が図録に掲載されている。
2025年	4月10日-6月10日	海にねむる龍——備正がのこしたものの宇城市不知火美術館	公立美術館の企画としては初の図録展

主要参考資料:「ある軌跡 備正・淳一里帰り展」西部美術学園、2008年、「菊畑茂久馬 戦後／絵画」grambooks、2011年、「福岡市美術館創業書6 九州派大全」福岡市文化芸術振興財団、2015年、「森山安英——解体と再生」北九州市立美術館、2018年、働淳インタビュー（2024年11月28日、2月27日、西洋美術学園にて）